教室開設のプロセス

①広報・周知活動

日本語学習支援の重要性を企業や地域コミュニティに訴えかけるための広報・周知活動に取り組んでいます

▼

②日本語学習支援依頼

③日本語教室開設・運営支援依頼

日本語学習支援、日本語教室開設・運営支援の希望、依頼をシステム・コーディネーターが受けます。

▼

④支援の可否判断

▼

⑤支援内容の検討とワーキンググループとの連携

各ワーキンググループと日本語教室の開設へ向けての準備を行います。

⑥対象者判定テストの実施

会話クラスに入るか、読み書きクラスに入るか、それともそれ以上のレベルかを見るクラス分けテストを行います。

⑦コースデザイン

▼

⑧教室開設説明会

日本語教室に興味がある近隣住民の皆さんや企業の従業員の皆さん、そして、日本語学習を希望する外国人の皆さんに集まってもらい、教室開設のお知らせ、教室の内容についての説明を行います。

▼

⑨事前説明会

日本語教室に参加したい外国人の皆さん。日本語パートナーを希望する人に集まってもらい、教室の進め方などについての説明会を開きます。

▼

教室開始！！

①広報・周知活動

本システムは日本語学習支援の重要性を企業や地域コミュニティに訴えかけ、取り組んでもらうという役割も担っています。そのため日々以下のような広報・周知活動に取り組んでいます。

・パンフレットの作成・配布
・情報誌への記事掲載
・企業へのアンケート調査
・企業・団体への訪問
・関連機関（市役所、商工会議所、国際交流協会など）との情報交換

など

広報というと配布物の作成などをイメージしがちですが、以上のように企業・団体への訪問活動や企業へのアンケート調査も行っています。このような活動は日本語学習支援への関心や興味を把握することにつながります。また関連機関との情報交換を密にしておくことも、日本語学習支援に関心のある組織を紹介してもらうきっかけになります。また情報を発信していることにより、日本語学習支援の依頼が突然飛び込んでくることもあります。このように常にアンテナを高く張り情報を集めるだけでなく、発信もしていくことが日本語学習支援の輪を広げていくために必要なことです。

次にこのような広報活動の結果生まれた日本語学習支援依頼をどのように受け、進めていくのかを説明します。

②日本語学習支援依頼

本システムは日本語学習支援（以下、支援）を希望する人の相談をシステム・コーディネーターが受けることから始まります。これまで以下のような団体や個人から相談がありました。

・外国人を雇用する企業
・外国人が多く住む公営住宅のある自治区
・国際交流・外国人支援をする団体

・日本語学習を希望する外国人
・すでに学習や学習支援をはじめている上記の人、団体

など

それぞれの相談者からどのような悩みを抱えて相談にやってきたか、以下のような詳細を聞き取り、そのニーズを明らかにします。

・誰を支援してほしいのか（対象地域、対象者、対象人数など）
・なぜ支援を希望するのか（目的）
・どのような支援を希望するのか（内容、方法など）
・どのくらいの支援を希望するのか（機関、頻度、目標など）

など

次に相談者にシステムの目的を以下のように説明します。本システムは公的なサービスの一環であり、明確な目的のもと構築・運用が行われてきましたので、それを理解してもらうことは支援を提供する上で重要なプロセスです。

【とよた日本語学習支援システムの目的】
本システムは、地域コミュニティの維持、向上を図るため、豊田市内に在住、あるいは在勤の外国人が円滑な日常生活を営むために最低限必要な日本語能力を習得することを支援する包括的なシステムを構築、普及することを目指します。また、外国人住民と日本人住民との接触機会を増やし、相互理解の促進および双方のコミュニケーション能力の向上を支援し、多文化共生社会の実現に寄与することを目的としています。

本システムでは日本語教室の開設・運営支援はもちろんのこと、外国人住民の日本語能力を測る「とよた日本語能力判定」の受験、日本語教室に来られない人のための「とよた日本語ｅラーニング」の利用などの支援を提供しています。また日本人住民に対してもコミュニケーション能力向上のために「日本語パートナー」としての活動の場の提供、日本語パートナー養成のための研修の受講などの支援を行っています。システム・コーディネーターは相談者と相談し、ニーズなどを検討することで必要な支援を提供していきます。

次節ではシステム・コーディネーターのもとに寄せられる相談の中でも最も多い

「日本語教室開設・運営支援」について取り上げたいと思います。

③日本語教室開設・運営支援依頼

本システムのもとに寄せられる相談の中で最も多いのが、日本語教室を開設してほしいという依頼です。すでに述べたように本システムの支援は公的なサービスの一環でもありますから、支援の対象はきちんと見極める必要があります。そのため相談者に日本語教室開設・運営のための基本条件を確認していきます。

【日本語教室開設・運営のための基本条件】

本システムの目的や理念に賛同することを前提として、以下の条件を満たしている必要があります。

①本システムの支援対象者（とよた日本語能力判定２レベル未満）が５名以上いる。

②当該地域または企業において、日本人住民または日本人従業員が日本語パートナー（ボランティア）として日本語教室に参加する。

③本システムによる支援修了後も日本語教室を継続する予定がある。

この時点で相談者の希望とマッチしない（たとえば学習目的が日本語能力試験対策であったり、学習希望者が５人未満であったりした）場合は、日本語教室開設及び運営支援に応じられないため、その他の支援について説明します。これらのその他支援については本システムによる日本語教室開設・運営支援を受けているか否かに関わらず利用可能なものです。いずれも利用者に費用はかかりませんが、回数や頻度などは担当者との調整のうえで利用していただくこととなります。

【利用可能な支援】

①システム・コーディネーターへの日本語学習や日本語教室運営などの各種相談

②「とよた日本語能力判定」による日本語能力レベルチェック

③オリジナル教材等の提供

④ｅラーニングの利用

⑤各種講座の受講

⑥日本語講師の紹介　※待遇や契約トラブルなどには関与しません

など

相談者の希望が本システムの支援条件とマッチしている場合は、それに対してどのような支援が可能か具体的な提案を示すとともに、本システムから相談者の役割を伝えます。

【具体的な支援策】

①とよた日本語能力判定「対象者判定」の実施
②プログラム・コーディネーターの派遣
③日本語パートナーの募集（広域）
④参加者への事前説明会
⑤教材の提供
⑥教材等のカスタマイズ

など

【依頼者側の役割】

①担当者（連絡窓口）決定
②学習希望者の追加募集
③日本語パートナーの募集（組織内・近隣）
④会場確保

など

これらの役割を相談者に確認してもらい、了承を得ることができてはじめて日本語教室開設・運営の依頼があったこととなります。

④支援の可否判断

システム・コーディネーターは関係者と連携をとりながら、依頼のあった案件について支援を行うことが妥当であるかを検討します。このときの関係者は主に市役所の担当者、総括、コースデザインワーキンググループリーダーです。検討される内容は主に以下の４つの項目です。

①支援を行うのが適当な企業・団体等であるか
②前述の【日本語教室開設・運営のための基本条件】を満たしているか
③日時や場所、対象、目的などのその他の条件が妥当であるか
④本システムが対応できる条件・規模か（依頼内容と支援体制のすりあわせ）

以上の４つの項目の検討を行ったら、各ワーキンググループと具体的な支援内容を検討していきます。

そして、依頼者に日本語教室開催に関わるさまざまな手配や開催案内及び学習者・日本語パートナー募集チラシの作成をお願いします。システム事務局はチラシの作成支援もします。学習者募集チラシは、最大 4 言語（ポルトガル語・スペイン語・中国語・英語）に翻訳され、日本語パートナー募集チラシと合わせて本システムのホームページに掲載します。また、印刷したものを教室開設依頼者は社内や地域の掲示板・回覧版等を利用して広報していただきます。チラシには①主催者、共催者の情報、②日程、時間、場所、連絡先、③日本語パートナーとして参加する場合には、外国語の能力や日本語教育の知識がなくても大丈夫であることなどが明記されている必要があります。応募者には、事務局及び教室開設依頼者側から、対象者判定や事前説明会の開催予定日をお知らせします。

⑤支援内容の検討とワーキンググループとの連携

日本語教室開設へ向けての準備はコースデザイン・ワーキンググループや日本語能力判定ワーキンググループと連携して行っていきます。そのため依頼があった旨を各ワーキンググループに伝え検討した上で日本語教室の開設を決めることとなります。ただこの順序などは各相談者の抱えている事情により異なる場合がありますので、臨機応変に対応することが大切です。また実際のスケジュールに合わせて、前述の役割をこなしていくことも重要なことです。以下にどのように支援をしていくか、何を支援していくかをまとめましたので参照してください。

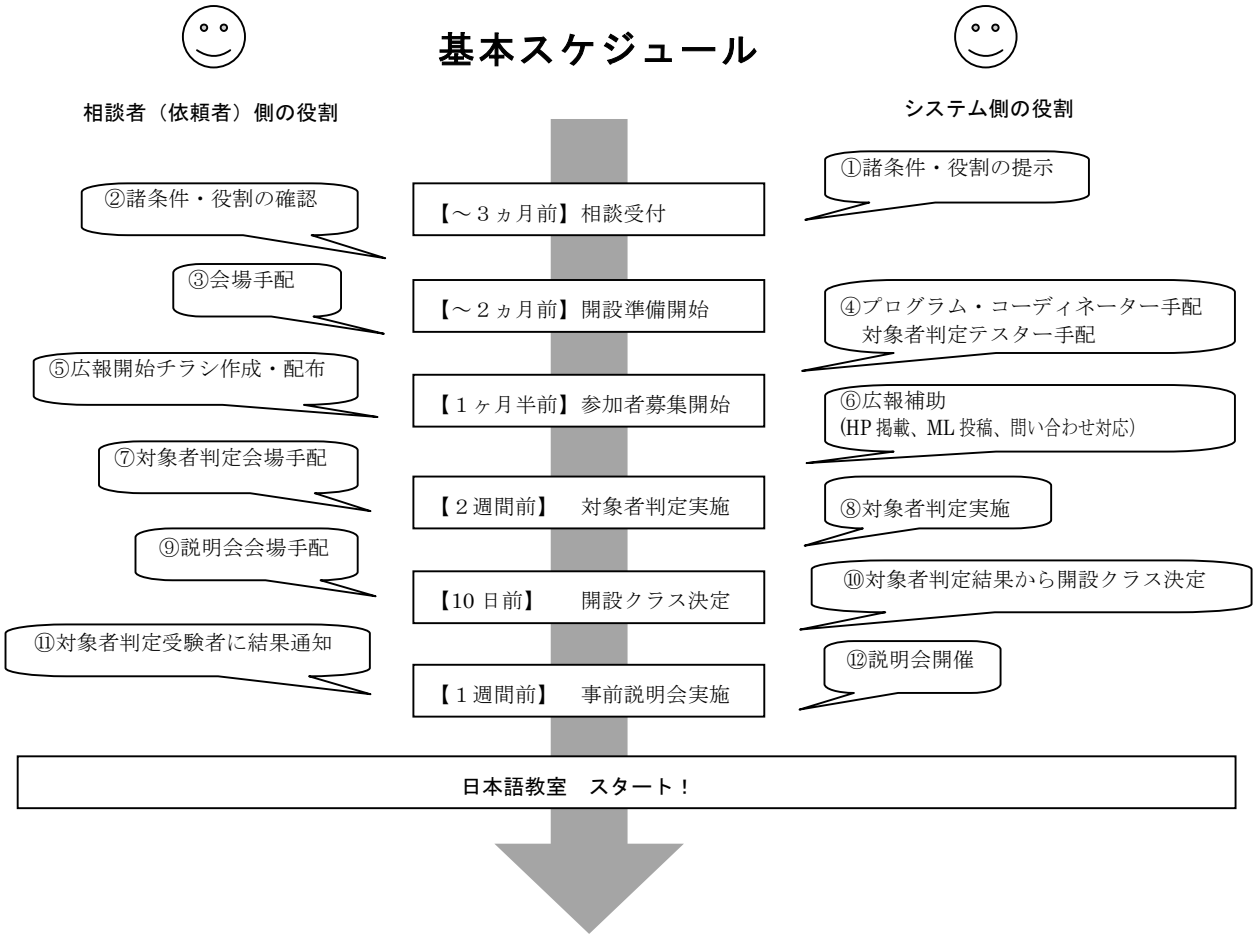


図１　支援内容とその役割

以上のような流れで支援は行われていきますが、ここで重要なのがワーキンググループとの連携です。システム・コーディネーターから各ワーキンググループへの依頼として、コースデザイン・ワーキンググループには新規開設する教室の担当プログラム・コーディネーターを決定してもらいます。担当プログラム・コーディネーターの人数は、予想される学習者の人数によって異なりますが、通常は 1 クラスに 2 名程度です。

日本語能力判定ワーキンググループには、対象者判定テスターの派遣を依頼します。テスターの人数も予想される学習者の人数によって異なり、通常学習者 3，4 人に対し 1 人の対象者判定テスターを派遣します。

⑥対象者判定テストの実施

学習希望者を対象に、対象者判定テストを実施します。この結果によって学習希望者は、①会話クラス対象者、②読み書きクラス対象者、③支援対象外（＝会話能力と読み書き能力の両方が 2 レベル以上）のいずれかに分けられます。支援対象外と判定された人には、日本語パートナーとしての参加をお願いしたり、対象外の人たちだけで自主運営による別クラスをつくることを提案したり、レベルに応じた他の日本語教室を紹介したりします。

対象者判定結果は、主催者、教室担当のプログラム・コーディネーターと学習者本人に伝えられ、今後の教室運営や目標設定の参考にしていただきます。

もし、この結果により各クラスの学習者人数が 5 人未満になった場合、そのクラスの開設を見送るか、学習者を追加募集することになります。こうした事態が起こるのを防ぐために、事前にできるだけたくさんの学習希望者（会話クラスまたは読み書きクラスいずれかの対象になりそうな人）を募集しておくことが大切です。

⑦コースデザイン

教室の新規開設、継続が決まったら、教室の運営方針を決定し、その方針に基づいてどのようなコースにするのかを計画します。このコースの計画を「コースデザイン」と呼びます。教室開設前の教室運営方針の決定については「５.役割」の「プログラム・コーディネーターの役割」を、コースデザインの詳細については「７.コースデザイン」をご覧ください。

⑧教室開設説明会

教室の運営方針、コースデザインができたら、それに基づいて「教室開設説明会」「日本語パートナー研修会」「事前説明会」の計画をします。このうち「教室開設説明会」は教室が開設されていなかった地域や企業で新たに教室を開設しようという場合やシステムの認知度をさらに高めようという場合に開くもので、毎回開かれるものではありません。これは「日本語パートナー研修会」も同様です。今まで教室に参加したことがない日本語パートナーが多数いる場合やこれから日本語パートナーをやってみたいという方にシステムの教室運営の理念や方針を理解してもらうために開くものです。これに対して「事前説明会」は新規開設、継続にかかわらず毎回開きます。「日本語パートナー研修会」の詳細に関しては「12.人材育成」の「日本語パートナー研修会」をご覧ください。

ここでは地域内、あるいは企業内で開く「教室開設説明会」について説明します。「教室開設説明会」は日本語教室に興味がある近隣住民の皆さんや企業の従業員の皆さん、そして、日本語学習を希望する外国人の皆さんに集まってもらい、以下の目的で開きます。①とよた日本語学習支援システムの概要を知ってもらうこと、②「主催者は何のために教室を開催しようと思っているのか」を知ってもらうこと、③「どのような教室を開催するのか」を知ってもらうこと、④「日本語学習を支援するために、ひいては住みよい地域社会、働きやすい企業を作り上げていくために、どのようなことに心がけてほしいか」を知ってもらうことです。

具体例を見ながら、それぞれの目的と内容を説明していきましょう。企業内で開催する説明会を例として取り上げます。

① とよた日本語学習支援システムの概要

まず、とよた日本語学習支援システムの概要を次のように説明します。

豊田市は、豊田市に住んでいる外国人、豊田市で働いている外国人の日本語学習を支援するため、「とよた日本語学習支援システム」を運営しています。この「とよた日本語学習支援システム」企業内、地域内で日本語教室の開設、運営を支援しています。 この工場でも、6月から8月までの10週間、日本語教室を開きます。今日は、その日本語教室について外国人の人だけではなく、一緒に働く日本人の人にも理解してもらいたく、この説明会を開いていただきました。

②主催者は何のために教室を開催するのか＝日本語教室開設の目的と意図

次に、教室の主催者から「何のために主催者は教室を開催するのか」の説明をしてもらいます。例えば次のような内容です。

今回、この工場内に日本語教室を開きます。 (工場内の外国人従業員の状況等) ただ、日本語教室とは言っても、外国人の従業員の皆さんの日本語を向上させることだけが目的ではありません。この教室開設の目標は、日本人従業員の皆さんと外国人従業員の皆さんが、日本語を使って交流することができるようになる工場にすることです。そして、将来的には、ここが日本人従業員にとっても、外国員従業員にとっても働きやすい工場、働きたい工場になることが教室開設の夢です。

この説明の後、システムの事業主体である豊田市からもシステムの普及の目的と意図を説明します。

③どのような教室を開催するのか＝教室の概要

次に、教室の進め方についての基本的な考え方を説明します。

この教室では、自分の国や自分の家族、自分の友だちや、自分の好きな場所、好きなことを話し合ったり、読んだり書いたりすることによって、自分のことが話せるようになったり、書いたり読んだりできるようになることを目指しています。具体的には以下のような話題を準備しています。
自分自身や家族について話す
家や家の回りについて話す
毎日の生活について話す
趣味、娯楽について話す

教室活動の進め方や学習の方法を理解し納得していなければ学習の効果を高めることは難しいと思います。ですから、システムが提案する「学び」、「交流を中心とした教室活動の効果」については、説明会、研修会、毎回の教室終了後のふりかえりを通じて繰り返し確認します。

④日本語学習を支援するために、どのようなことに心がけてほしいか

次に、日本語学習を支援するために、ひいては住みよい地域社会、働きやすい企業を作り上げていくために、周囲の人たちに心がけてほしいことを説明します。この目的は、企業内や地域内に日本語で話す土壌を作ることにあります。土壌作りとは、まず、少しの内容でかまわないから日本語で交流のきっかけを作ること、そして、交流に際してはお互いに歩み寄る気持ちを持つこと、最後に言語習得は時間がかかることを理解している人を増やすことを意味しています。具体的には次のような内容を話します。

この工場が日本人従業員にとっても、外国員従業員にとっても働きやすい工場にするために、以下の点について皆さんにもご協力いただきたいと思います。
毎週木曜日に教室があります。教室で勉強してから仕事に入る人もいると思いますし、仕事の後で勉強する人もいると思います。一言でいいので、日本人の方は、「今日・きのう、何を話した？」と聞いていただければ、勉強をしたかいがあります。
また、勉強している人は、「今日・きのう勉強したのは……」と勉強したことを話してみてください。それが、工場内で始まる日本語による交流です。
最初は質問しても、日本語では答えられないかもしれません。また、何を言っているかわからないこともあるとは思います。でも、結構、理解してあげようと思って聞いていると理解できるものですし、そういう気持ちが伝わることが日本語の上達の最大の鍵、動機付けになります。
また、日本人、外国人を問わず、上手く言いたいことが伝わらなくても、また理解できなくてもあきらめないで精一杯、伝え合う努力を続けてください。身振りを使ってもいいですし絵を使ってもいいですし、何でもいいです。コミュニケーションを続けようと思うことが上達に繋がります。
もう一点、特に日本人の方に注意していただきたいことがあります。日本語の勉強を始めて、すぐに丁寧な話し方ができるようにはなりません。最初はみんな「きのう何した？」「何食べた？」というのも、毎日、耳にしたりすることばが一番理解しやすく、覚えやすいからです。相手がだれかを考えて、ことばを使い分けるというの

は、かなり上達してからになります。中には、そういう言葉づかいを不快に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、そんな言葉づかいでも、話さなければ上達はありません。通じるようになって、次に上達があることを理解してください。

⑤日本語パートナー募集

日本語パートナー募集では次のようなことを話します。ポイントは「誰でも交流の意思があれば参加可能」、「来られるときに来てください」と垣根を低くすることです。

いままで説明してきたように、今回開設する日本語教室は、日本人と外国人が自分の国や自分の家族、自分の友だちや、自分の好きな場所、好きなことを話し合う交流を通して、わかりやすい日本語をお互いに身につけていこうとするものです。

ですから、一般的な会話教室のように、先生が一人いて、学生がたくさんいて会話の練習をする、という形をとりません。日本人、外国人が混じり合ってグループを作り、そこで簡単なことを話し合いながら進めていく形をとります。

このような交流を通したことばの学習に興味がある方、そして、ぜひ自分もいろいろな人と話してみたい、という方は、「日本語パートナー」として、教室に参加していただきたいと思います。「日本語パートナー」とは日本語教室で、外国人学習者の方といっしょに「わかりやすい日本語」で会話をしてくださる方のことです。日本語教育に関する知識や経験などは問いません。事前準備なども不要です。相手を尊重する気持ちと相互理解の姿勢をもって、外国人との交流を楽しみたいという方ならどなたでも大丈夫です。また、毎回でなくてもかまいません。

もちろん、進行役として、システムからプログラム・コーディネーターという専門家が入りますので、「ことばがぜんぜん出来ない」とか不安を感じる方でも大丈夫です。ぜひ、よろしくお願いいたします。

⑥教室概要（日時、場所など）

最後に、教室開催の日時、曜日、場所などを説明して、説明会を終了します。

⑨事前説明会

教室参加予定者に、教室を開設する曜日、時間帯に集まってもらい事前説明会を開きます。

この説明会は、教室を担当するプログラム・コーディネーターが内容の検討、進行を担当します。資料は豊田市内で主要な使用言語に翻訳されます。

内容は、教室開設説明会と重なる所もありますが、大きく１．とよた日本語学習支援システムの概要、２．教室参加者の役割、３．教室活動の流れ、４．コースの流れ、５．教室体験、６．教室概要（日時、場所など）、を説明します。さらに、説明会終了後には「ふりかえり」も実施します。

１～６の流れを順番に進めるわけではありません。初めての説明会なのか、それとも２期目、３期目と継続している日本語教室の説明会なのかなどの条件によって最も

適切だと考えられる進行を考えます。

具体例を見ながら、それぞれの目的と内容を説明していきましょう。これは地域内で開催した日本語パートナー研修会と学習者説明会の内容の抜粋です。

主催者・事業主体者・システム関係者の紹介と挨拶

最初に教室主催者、システムの事業主体である豊田市、プログラム・コーディネーターなどシステム関係者の紹介と挨拶を行います。教室開設説明会と同様ですが、教室の主催者からは「何のために主催者は教室を開催するのか」の説明を、豊田市からはシステムの運営、普及の目的と意図を説明してもらうようにします。

これ以降は資料に基づいて説明を行います。基本的に日本語パートナー、学習者のグループに分かれて説明をします。学習者のグループでは、学習者の第一言語に合わせた説明資料を準備します。説明はわかりやすい簡単な日本語を使って行います。学習者には、プロジェクターに示される番号と一致する番号を説明資料から探してそこを見てもらうようにします。もちろん、０、１レベルの学習者にとっては、わかりやすい簡単な日本語を使っても理解しにくい内容も含まれています。ですから、できるだけ映像や音声などを使用した説明資料を準備し、教室の流れや役割などは理解してもらうようにプログラム・コーディネーターは心がけるようにしてください。学習者の中には従来の枠組みに基づいた日本語教育を期待したり予想したりして来る人も数多くいます。この説明会では少なくとも「新たなる日本語学習支援の理念」に基づいて教室活動が行われていること、そして、日本語パートナーは語学教師ではなく学習者と交流する役割であることを理解してもらうことを目標としてください。同時に、日本語パートナーには「交流」が学習者の日本語習得を促進することと同時に、システムが運営支援する日本語教室が学習者の日本語学習、日本語習得を促進する交流を目指していること、日本語習得を促進する交流とは「ただのおしゃべり」ではないことを理解してもらうことを目標としてください。

もちろん、１回１時間半の説明では、深い理解を得られることは期待できないかもしれません。大切なのは、繰り返し理解を深める機会を作ることなのです。その第一歩として事前説明会は大切な役割を果たしています。

１．とよた日本語学習支援システムの概要

まず、とよた日本語学習支援システムの概要と目的を次のように説明します。

概要 豊田市に在住、在勤の外国人の日本語学習を支援するという豊田市の事業です。現在、名古屋大学が豊田市から委託を受け、平成 19 年度の実態調査に始まり、平成 20 年度から実際の教室運営を始めているプロジェクトです。
目的 ① 外国人に日本語を学ぶ機会を得てもらうこと。 ② 日本人に「外国人にとってわかりやすいコミュニケーション」の仕方を学んでもらうこと。 ③ 日本語を／も使って交流する機会を作り、外国人、日本人相互の関係を作り、共に住みやすい地域、働きやすい職場にすること。

２．教室参加者の役割

日本語教室にはどのような立場の人が参加し、それぞれの立場で何をするのかを次のように説明します。

システムが運営する日本語教室には３種類の参加者がいます。システムから派遣される「プログラム・コーディネーター」、日本語を学ぶ「学習者」、「日本語パートナー」です。

プログラム・コーディーネーター

プログラム・コーディネーターは教室の進行役であり、学習者と日本語パートナーの交流がスムーズに進むようにサポートしていきます。

活動の中でわからないこと、日本語でわからないこと等があれば、プログラム・コーディネーターに声をかけてください。

日本語パートナー

日本語パートナーは日本語を教えるのではなく、学習者と日本語で交流します。この交流を通して、日本語パートナーは外国人にとってわかりやすい話し方を身につけます。

学習者

この日本語教室に来る学習者は、日本語パートナーとの交流を通して、日本語や地域社会に関することを学びます。学習者の日本語レベルは以下のとおりです。

会話クラス　　…日本語で会話がまだできない人
(対象者判定テストで、「聞く」「話す」の判定結果が２レベルに満たない人)
読み書きクラス　…会話は少しできるが、読み書きがまだできない人
(対象者判定テストで、「聞く」「話す」の判定結果が２レベル以上で、「読む」「書く」の判定結果が２レベルに満たない人)

ここでも「日本語パートナー」は交流を行うことを目的として参加している人であり、日本語を教えることを目的として参加している人ではないということは強調してください。これは日本語パートナーに対してだけではなく、学習者に対しても強調し

てほしいことです。「日本語パートナー」と「学習者」はお互いについて質問したり答えたりしてもらいたいと思います。日本語についての質問はプログラム・コーディネーターに、という役割分担をしっかり説明してください。

もちろん日本語パートナーが「教えてはいけない」というわけではありません。一言説明すれば納得できることであれば、時間の節約にもなりますし、欲求不満もたまりませんので、説明してもかまいません。大切なことは「一言説明することがその後の交流を活発にするかどうか」で判断することです。

３．教室活動の流れ

資料のような表を使って、１日の教室活動の流れを紹介します。具体的には、次のようなやり方があります。

○ 資料をプログラム・コーディネーターが説明します。継続している日本語教室の場合には、確認するだけでもいいでしょう。

○ ５の教室体験を先に行ってから説明することもできます。最初に５分程度、活動を行ってみて、その後は資料を見ながら確認したり、実際の教室活動の映像を見ながら確認したりする方法もあります。

４．コースの流れ

１回目から１０回目までのコースの流れを説明します。次のような説明をします。

この教室は、日本語を使って地域に住んでいる人が、お互いが理解しあうことを目的としています。その目的を達成するために、教室ではお互いに伝えたいことを伝え合う活動をしています。そして、最終回では、より多くの人に伝えたいことを伝える活動を予定します。 例)発表会・教室の報告を回覧板に載せる、文集を作成する、など

詳細はコースが始まってからでもかまいませんが、最低限、学習者と日本語パートナーには次の２点は理解してもらいたいと思います。

１)参加者が主体的に作り上げていくコースであること。参加者が話し合って、テーマを選んだり、目標を相談したりして教室活動を決めます。

２)10 回目には、自分だけではなく、他の参加者や主催者、ひいては地域の人々や企業の従業員が教室の成果を実感できるような教室の集大成を示す活動を行います。９回までの活動はそこに至るためのステップだと位置づけています。

５．教室体験

教室体験では実際の授業の流れを簡単に体験します。教材をそのまま使う場合もあります。この活動の目的はたくさんあります。体験した人がそれぞれにどう感じ、それを今後の活動にどう活かせばいいかを「ふりかえり」の時間に話し合ってください。

６．教室概要（日時、場所など）

最後に、教室開催の日程、時間、場所、連絡先など事務的な連絡をして、研修会、ガイダンスを終了します。

７．ふりかえり

日本語パートナーの皆さんには事前説明会を通して感じたことを振り返る時間を持ちます。「ふりかえり」の時にとりあげるポイントをいくつか紹介します。

１）１日にどれくらいの表現が覚えられるのか、そして、使えるようなるのかを実感する。

２）一度にどれくらいの長さの表現なら聞いて繰り返せるのかを実感する。

３）理解できないことばを聞いたり使ったりすることがどれくらいストレスを感じるものなのかを理解する。

４）制限された状況で話すことの難しさを知ると共に、いかにわかってもらうか工夫する。

担当するプログラム・コーディネーターは、研修会や説明会はあくまでも第一歩であるという認識を持ってほしいと思います。システムが提案する「学び」は体験の繰り返し、さらに、体験した後の「ふりかえり」を通して実感できるものだと考えています。毎回の教室の後で行う「ふりかえり」で、繰り返しこの「学び」について、いろいろな角度から光を当て、考える時間を持つようにしてください。

以上が教室開設依頼・相談を受けてから初回の教室活動が行われるまでの基本的な流れになります。この間のポイントとしては、依頼者及び学習希望者のニーズをしっかり把握することと、実際に教室活動に参加する人（学習者、日本語パートナー）はもちろんその周囲の人たち（会場の管理者、広報協力者、教室外で接する人等）にも教室活動に対する理解と協力をお願いしておくことです。この 2 点が、その後の教室運営や学習成果に大きな影響を及ぼすことになります。

（平成 23 年３月 31 日）

○○日本語教室日本語教室　説明会（日本語）

【　日時　】　20**年 1 月 18 日（火）16:30～18:00
【　場所　】　株式会社○○ △△工場内食堂
【授業担当者】△△・□□・☆☆・◇◇

①

１．とよた日本語学習支援システムとは

概要

豊田市に在住、在勤の外国人の日本語学習を支援するという豊田市の事業です。現在、名古屋大学が豊田市から委託を受け、平成 19 年度の実態調査に始まり、平成 20 年度から実際の教室運営を始めているプロジェクトです。

②

目的

(1)外国人に日本語を学ぶ機会を得てもらうこと。
(2)日本人に「外国人にとってわかりやすいコミュニケーション」の仕方を学んでもらうこと。
(3)日本語を／も使って交流する機会を作り、外国人、日本人相互の関係を作り、共に住みやすい地域、働きやすい職場にすること。

③

２．参加者とその役割

システムが運営する日本語教室には３種類の参加者がいます。システムから派遣される「プログラム・コーディネーター」と、「学習者」、「日本語パートナー」です。

④

<u>プログラム・コーディーネーター</u>

　プログラム・コーディネーターは教室の進行役であり、学習者と日本語パートナーの交流がスムーズに進むようにサポートしていきます。

　活動の中でわからないこと、日本語でわからないこと等があれば、プログラム・コーディネーターに声をかけてください。

⑤

日本語パートナー

日本語パートナーは日本語を教えるのではなく、学習者と日本語で交流します。この交流を通して、日本語パートナーは外国人にとってわかりやすい話し方を身につけます。

⑥

学習者

この日本語教室に来る学習者は、日本語パートナーとの交流を通して、日本語や地域社会に関することを学びます。学習者の日本語レベルは以下のとおりです。

⑦

会話クラス　　…日本語で会話がまだできない人

（対象者判定テストで、「聞く」「話す」の判定結果が２レベルに満たない人-資料参照）

⑧

読み書きクラス…会話は少しできるが、読み書きがまだできない人

（対象者判定テストで、「聞く」「話す」の判定結果が２レベル以上で、「読む」「書く」の判定結果が２レベルに満たない人-資料参照）

⑨

３．コースの流れ

この教室は、日本語を使って地域に住んでいる人、同じ職場で働く人が日本語を使ってお互いに理解し合うことを目的としています。その目的を達成するために、教室ではお互いに伝えたいことを伝え合う活動をしています。そして、最終回では、より多くの人に伝える活動をします。

例）発表会・教室の報告を回覧板に載せる、文集を作成する、など

⑩

【期間】　　20**年１月 25 日(火)～20**年４月５日(火)（全 10 回）

【時間】　　毎週火曜日　16：30～18：00

【場所】　　株式会社○○　△△工場内食堂

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
火曜	1/25	2/1	2/8	2/15	2/22	3/1	3/8	3/15	3/22	3/29
	⇧ テーマ 決め								⇧ 成果 報告会 準備	⇧ 成果 報告会

＊○月○日(土)にはフォローアップ研修会を予定しています。

⑪

４．その他

【連絡先】　名古屋大学留学生センター　衣川研究室

Tel/Fax：052-789-4700　/ メールアドレス：otoiawase@toyota-j.com

【参考】　とよた日本語学習支援システム　ホームページ

URL：　http://www.toyota-j.com

⑥日本語レベル

ﾚﾍﾞﾙ	段階	内容	聞く	話す	読む	書く
4	拡大段階	より多くの領域で日本語を用いてコミュニケーションができる。	あまり接する機会の多くない車内放送や病院などのアナウンスを聞いて、必要な行動が取れる。仕事や個人的な話題に関して説明を聞いて理解できる。	自分の経験やできごとなど、まとまった話ができる。また相手に対し説明を求めたり、質問することができる。あまり接する機会の多くない場面でも対応できる。	自分で辞書を調べてあまり接する機会のない文や文章が理解できる。	自分で辞書を調べてあまり書いた経験のない文や文章(問い合わせメールなど)が書ける。
3	自立段階	自立して自分の身の周りの社会参加が日本語を用いてできる。	職場や家庭など慣れた場所で質問や指示がわかる。	質問に文で答えることができる。わからないとき、説明を求めることができきる。家族について説明したり、人と会う約束をしたり、簡単な感想を述べることができる。	自分で辞書を調べて日常生活で接する機会の多い文や文章(回覧板など)が理解できる。	自分で辞書を調べて日常生活で必要度が高い文や文章(履歴書の志望の動機など)が書ける。
2	要支援段階	周囲の支援に基づいて、自分の身の周りの社会参加が日本語で行える。	簡単な日本語で話してもらえば、質問や単純な指示がわかる。	簡単な質問なら単語で答えることができる。わからないと聞き返したり、ゆっくり話すよう依頼することができる。場所を聞くなど簡単な質問ができる。	外国人にとってもわかりやすく書かれていれば日常生活で接する機会の多い語や文の意味が理解できる。	五十音図や辞書を調べたり、人に助けてもらいながら日常生活で必要度が高い手紙などの短いメッセージが書ける。
1	基礎段階	限られた単語を理解したり、話す・書くことができる。	「名前は？」のような簡単な質問がわかる。はっきりゆっくり言ってもらえば、自分のよく聞き慣れたものの名前や地名などが聞いてわかる。ものの値段や曜日、日付、時刻などが聞いてわかる。	日常生活で必要度が高く、接する機会の多い語であれば出身や居住地域、電話番号、時間、値段など基本的なことが単語で言える。	ひらがな、カタカナ、漢字で書かれた自分の名前、国名など日常生活で必要度が高く、接する機会の多い語であれば理解できる。	名前、国名、住所、所属など使用頻度や必要度の高い語をひらがな・カタカナ・漢字のいずれかで書ける。
0	未学習段階	日本語を話したり聞いたりすることがほとんどできない。	あいさつや自分の名前を呼びかけられていることがわかる。	あいさつができる。名前が言える。		

会話クラスの流れ（日本語）

教室の前に

事前課題（毎回、教室の最後に次回のテーマを説明する。）
次回のテーマについて教室でみんなに日本語で話したい、伝えたいと思うことを考えてメモしてくる。母語でもかまわない。（周りの人に日本語では何と言うか聞いたり、辞書を引いたりしてもよい。）

▼

教室で

ⓐプログラム・コーディネーターによるモデル提示

プログラム・コーディネーターが、その日のテーマに沿った簡単なモデルを提示する。

▼

学習者		日本語パートナー
ⓑ日本語パートナーの話を聞いて理解する。		ⓑメモの内容を写真や絵などを使って学習者にわかりやすく伝える。 どのような文なら、学習者が理解できるかを考えながら話す。

▼

ⓒメモの内容を写真や絵などを使ってパートナーに伝える。 ※この時間は自分の言いたいことを日本語で何と言うか考える時間。話した内容の中から、２、３つは文にしてみる。		ⓒ学習者の目を見てうなずきながら、好意的・肯定的に聴く。

▼

ⓓ交流タイム　（１回目）できるだけ何回も相手を変えて伝える		
学習者		日本語パートナー
日本語にしたものをみんなに伝える。この時間は、言い方を聞くのではなく、自分の話を聞いてもらう時間。繰り返し話すことで、勉強したことを言えるようにする。パートナーの話を聞いて、聞きたいことは質問してもかまわない。		この時間は、繰り返し話すことで、勉強したことを言えるようにする時間。話すときは、学習者が理解できる話し方で伝える。学習者が話している時間は、聞き役になる。学習者が話し終わった後で、聞きたいことは質問してもかまわない。

▼

ⓔ２～３回目のモデル提示。
1 回目に話した内容を少し発展させる。プログラム・コーディネーターが、簡単なモデルを提示する。

▼

ⓕ発表タイム	
みんなの前で、今日話したことを報告する。	

▼

ⓖ次回のテーマ説明

▼

教室活動後
ふりかえり

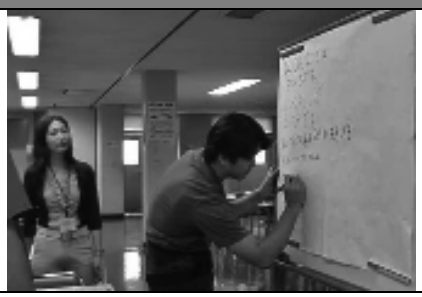
読み書きクラスの流れ（日本語）

教室の前に

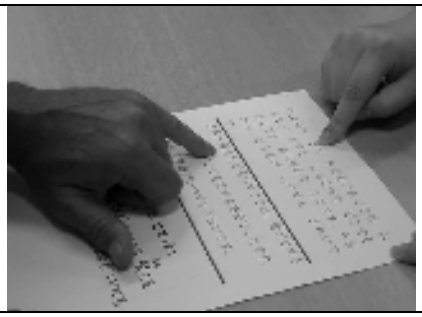
事前課題（毎回、教室の最後に次回のテーマを説明する。）
前回のクラスで勉強した言葉を覚える／書けるようにする。
今回使える言葉や表現を調べる。

▼

教室で

学習者		日本語パートナー
ⓐ（人数が集まるまで、前回の掲示作品を読む。）宿題で書けるようになったことを、板書。書いた本人が読む。		ⓐ学習者が前回の成果を書くのを見守り、学習者に改善点等をアドバイスする（書き方等）。

▼

ⓑその日のテーマに沿った簡単な語や文や読み物をパートナーに読んでもらい、聞く。 ⓒその後、音読する。		ⓑその日のテーマに沿った簡単な語や文や読み物を学習者に読み聞かせる。

▼

ⓓテーマにそって、パートナーと交流しながら書けることを増やす。単語を増やしても、表現／文章を増やしてもよい。		ⓓテーマにそって、学習者と交流しながら学習者が書くためのサポートをする。

▼

学習者		日本語パートナー
ⓔ交流の中で出てきた言葉を、文レベルで清書する。分からない時はパートナーに書き方を聞きながら書く。 ⓕA3 の用紙に清書の時間に文レベルで書けるようになったことの中から、選んで大きく書く。		ⓔ学習者が清書するのをサポートする。 ⓕA3 の用紙に学習者と同じテーマで１文書く。学習者にも読みやすい文を考えながら書く。

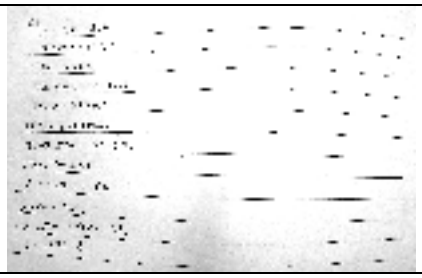
▼

ⓖ書いた用紙を壁に貼り、交流しながら、読んだり、分からない言葉を教えあったりする。用紙には名前も入っているので、学習者同士が母語で教えあう行動があってもよい。		ⓖ用紙を壁に貼り、交流しながら、読んだり、分からない言葉を教えあったりする。用紙には名前も入っているので、どうしても日本語で伝えるのが難しい場合は、学習者同士教えあってもよい。

▼

ⓗ今日書いたことや読んだことの中で、強く印象に残ったことや、よく覚えていることをお互いに報告する。

▼

ⓘ今週の宿題を決める。今日話した中で覚えたほうがいい言葉／表現や、他の学習者の作品を見ていて、自分も覚えようと思った言葉／表現を話し合う。		ⓘ今日話した中で覚えたほうがいい言葉／表現や、他の学習者の作品を見ていて、学習者が覚えようと思った言葉／表現があるか話し合い、パートナーが宿題用紙の「お手本」の欄に書く。

▼

教室活動後

ふりかえり

にほんご きょうしつ
せつめいかい
（学習者用資料）

① とよた日本語学習支援システム

- 豊田市にすんでいる外国人や、豊田市ではたらいている外国人の日本語の勉強を手伝います。

② もくてき

Q どうして 日本語 きょうしつ を するんですか。

○外国人→ 日本語を勉強するチャンス

○日本人→ 外国人と はなすときの、
かんたんな日本語を れんしゅうする。

○外国人／日本人
→日本人と外国人が、日本語で はなして
なかよくなると、いい町、いい会社になる。

③

④ プログラム・コーディネーター Program・Coordinater

⑤ 日本語パートナー Nihongo-partner

⑥ みなさん

⑦ かいわ 会話クラス

⑦ かいわ 会話クラス

保見日本語教室第４期　　読み書きクラス（ポルトガル語）　　ISO:R9:3070:2

テーマ007	自分の趣味について話す

あなたの趣味は何か、どんなことがすきか、よく何をするのかを話しましょう。

Fale sobre o seu passatempo (hobbi), que tipo de atividade você gosta de fazer ou o que faz frequentemente.

下の絵と表・写真を参考に、話すときに使いたいことばのテスト、絵、写真を準備してください。メモは、母語でかまいません。

Consulte a figura/tabela/fotografia abaixo e prepare uma lista das palavras necessárias para falar a respeito dela (pode ser em sua língua materna), preparando também figuras ou fotografias para falar a respeito delas.

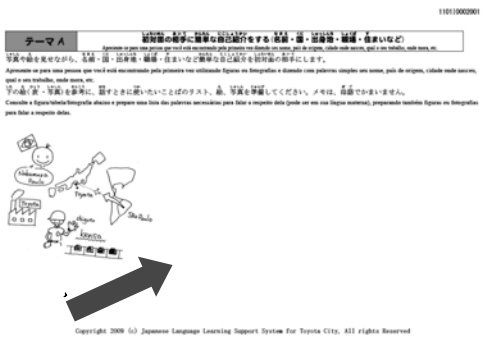
趣味	何をしますか。	いつ(何曜日、一ヶ月に何回、どのぐらいなどを)。

Copyright 2010 (c) Japanese Language Learning Support System for Toyota City, All rights Reserved

⑦−ⓐ かいわ 会話クラス

⑦−ⓑ かいわ 会話クラス

⑦−ⓒ かいわ 会話クラス



110110002901

テーマＡ	初対面の相手に簡単な自己紹介をする（名前・国・出身地・職種・住まいなど）

Apresente-se para uma pessoa que você está encontrando pela primeira vez (nome, país de origem, cidade onde mora, qual o seu trabalho, onde mora, etc.

写真や絵を見せながら、名前・国・出身地・職種・住まいなど簡単な自己紹介を初対面の相手にします。

Apresente-se para uma pessoa que você está encontrando pela primeira vez utilizando figuras ou fotografias e dizendo com palavras simples seu nome, país de origem, cidade onde mora, qual o seu trabalho, onde mora, etc.

下の絵と表・写真を参考に、話すときに使いたいことばのテスト、絵、写真を準備してください。メモは、母語でかまいません。

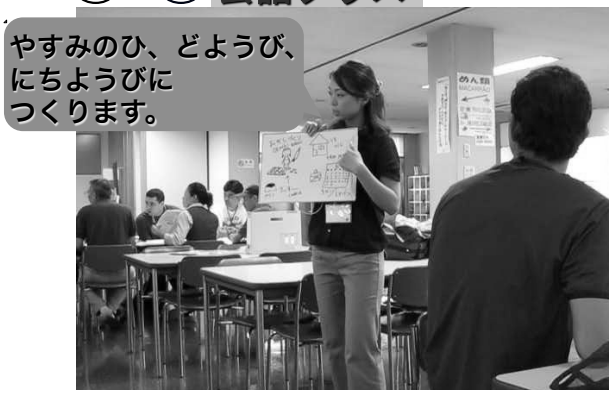
Consulte a figura/tabela/fotografia abaixo e prepare uma lista das palavras necessárias para falar a respeito dela (pode ser em sua língua materna), preparando também figuras ou fotografias para falar a respeito delas.

Copyright 2009 (c) Japanese Language Learning Support System for Toyota City, All rights Reserved

⑦−ⓓ 会話(かいわ)クラス

もう1かい！

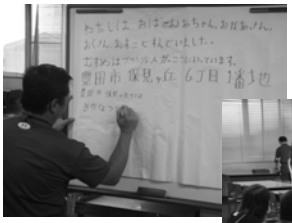
⑦−ⓔ 会話(かいわ)クラス



⑦−ⓕ 会話(かいわ)クラス

⑧ 読(よ)み書(か)きクラス

⑧−ⓐ 読(よ)み書(か)きクラス



⑧−ⓑ 読み書きクラス

わたしの しゅみは
つりです。
いけで つりをします。

私の趣味はつりです。
池でつりをします。

わたしのしゅみは
つりです,いけで
つりをします.

⑧−ⓒ 読み書きクラス

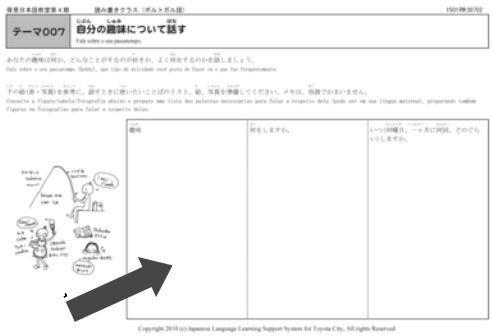
わたしの しゅみは
つりです。
いけで つりをします。

私の趣味はつりです。
池でつりをします。

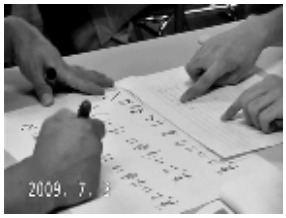
わたしのしゅみは
つりです,いけで
つりをします.

⑧−ⓓ 読み書きクラス

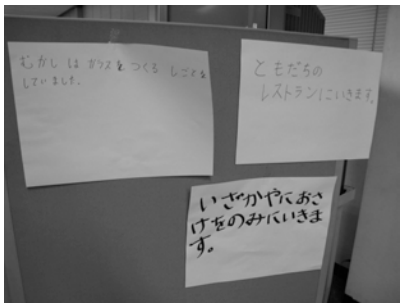
⑧−ⓓ 読み書きクラス



⑧−ⓔ 読み書きクラス

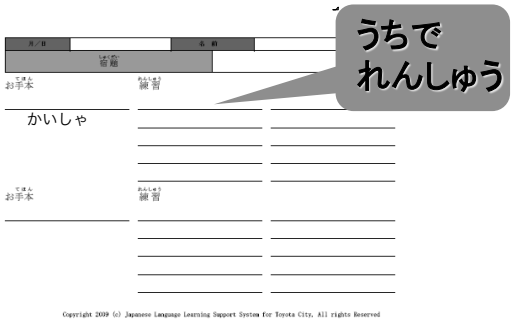


⑧−ⓕ 読み書きクラス



⑧−ⓖ 読み書きクラス

⑧−ⓘ 読み書きクラス



⑨ 10かいめ

URL： http://www.toyota-j.com

日本語教室
説明会
（日本語パートナー用資料）

①とよた日本語学習支援システムとは

- 概要
- 豊田市に在住、在勤の外国人の日本語学習を支援するという豊田市の事業です。

②目的

- (1)外国人に日本語を学ぶ機会を得てもらうこと。
- (2)日本人に「外国人にとってわかりやすいコミュニケーション」の仕方を学んでもらうこと。
- (3)日本語を使って交流をし、日本人、外国人にとって住みやすい地域、働きやすい職場にすること。

以下、学習者用と同様